

No.105

令和3年 春

ISHIKAWA
NANAO
ART MUSEUM

石川県七尾美術館だより



長谷川等伯展 〜動物表現と北陸初公開作品を中心に〜

4月24日(土)〜5月23日(日) 会期中無休

今年も、当館にて毎年シリーズで継続して

る特別展「長谷川等伯展」の季節がやってきました。昨年は、新型コロナウイルス感染症拡大による臨時休館で中止となりましたが、なんとか秋に所蔵作品と寄託作品による「長谷川等伯展」を開催できました。ご協力くださいました関係各位に、改めて御礼申し上げます。

さて、長谷川等伯(1539〜1610)は、能登国七尾出身で桃山時代に活躍した画家です。すでに20歳前後には京都を往来して画技を学び、能登において信春の名で絵仏師の仕事を中心に活動しました。30歳を過ぎて活動の舞台を京都に移し、錚々たる人脈を得て狩野派に対抗、長谷川派を率い、日本水墨画の最高傑作・国宝「松林図屏風」(東京国立博物館蔵)や、金碧障壁画・国宝「楓図」(京都市・智積院蔵)など、数々の名作を生み出しました。

シリーズ26回目となる本年は、昨年ご来館いただけなかった全国の等伯ファンや、初めての方も含めて多くの方に等伯の魅力に触れていただくたく、3つのテーマで22点を展覧します。

このコロナ禍ですが、本展に足をお運びいただき、少しでも楽しくホッとする時間となれば幸いです。

テーマ1 《信春時代の動物表現》

神仏画では、動物は眷属や使者として登場することがほとんどで、基本的なパターンがあり、形式的な図様が多くなります。しかし、細かく比較すると、モチーフや時代によっても微妙に変化しているのが分かり、興味深いです。

① 国指定重要文化財「三十番神図」 1幅 長谷川信春(等伯)筆 永禄9年(1566)

28歳の制作です。春日大明神に鹿、稲荷大明神には茶色と白色の狐、諏訪大明神に鷹、八幡大菩薩に鳩、大比叡大明神には晩年好んで描いた、「牧谿猿」と呼ばれる手長猿も描かれています。動物たちが、より華やかさを演出しています。



高岡市・大法寺蔵

テーマ2 《等伯時代の動物表現を中心に》

京都では法華宗の芸術家一門、大坂堺出身の茶人など、強固な人脈を得た等伯は、50歳前後から次々と大作を手掛けます。そして、中国の禅僧画家・牧谿の作品などに影響を受け、水墨で猿や鶴、虎などの動物画を繰り返し描きました。しかし、ただの模倣ではなく、家族の情愛など独自の動物表現として昇華させていったのです。ここでは、等伯時代の水墨による動物表現を紹介します。また、墨の濃淡で勢いのある松や竹などを巧みに描いた禅宗寺院の障屏画や、祖師像などもご覧ください。

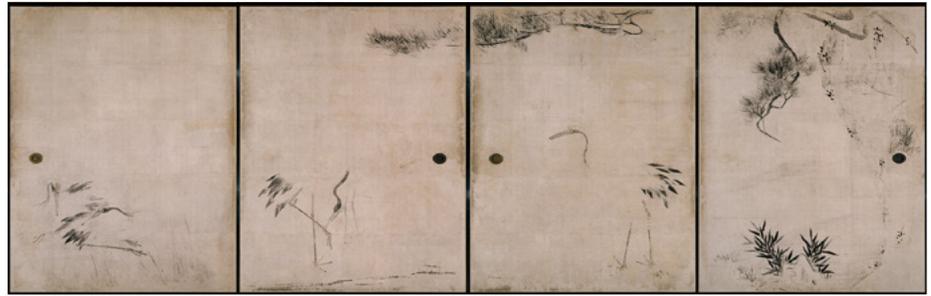
北陸初公開!

② 国指定重要文化財「松鶴図襖」 4面 長谷川等伯筆 慶長7年(1602) 京都市・天授庵蔵

天授庵の何十面もの等伯筆襖絵の内、この「松鶴図襖」は今回北陸初公開となります。20年程前までは「長谷川派」筆とされていましたが、出光美術館(東京都)蔵「竹鶴図屏風」の鶴や松との共通性



「海棠に雀図」(部分) 長谷川信春(等伯)筆 個人蔵



②



④

から、現在は等伯の真筆と認められています。簡素ながら、座って休む左の鶴は、なんとも優しく穏やかな眼差しをしています。

北陸初公開！

③「臨濟・徳山像」 2幅(部分) 長谷川等伯筆

桃山時代(16世紀) 京都市・衡梅院蔵

禅宗において、僧侶の肖像画は祖師像も含めて頂相と呼ばれ、多くの制作依頼がありました。本図と同様の図様として、曾我派や狩野派の作品などが知られ、一見するとそっくりですが、じっくり見ると濃墨の使い方や髭などの細かい筆法に、等伯らしい表現が見られます。どっしりとして、迫力があります。



テーマ3 《長谷川派の動物表現》

等伯の息子や弟子たちは、等伯を追随しながら、他派の影響も受けつつ新たな表現を模索してきました。ここでは、等伯の四男・左近、主要な弟子の主殿、長谷川派絵師・等哲などによる動物表現を紹介します。

所蔵先関係以外では初公開！

④「千鳥図屏風」 6曲1双 長谷川等哲筆 江戸時代前期(17世紀)

大阪市・西日本旅客鉄道株式会社蔵

本図は所蔵先本社と、系列のホテルグランヴィア京都エントランスで、定期的に半双ずつ展示されるのみで、同所以外での公開、6曲1双揃っての展示は初となります。

本図は金箔や銀泥をふんだんに用い、大画面に京都の宇治川と橋、千鳥が描かれています。たくさんの千鳥が、楽しそうに橋や川の上を舞う姿はとても印象的で、両隻続けて見ると圧巻です。作者の長谷川等哲は謎が多く、現存作品も僅かで、貴重な1点といえます。

観覧料

	個人	団体
一般	800円	700円
大高生	350円	300円

※中学生以下無料・団体は20名以上です。

第77回現代美術展 七尾展

5月28日(金)～6月20日(日)

「現代美術展」は、主に日本芸術院会員や重要無形文化財保持者(人間国宝)をはじめとする石川県内在住の作家や美術愛好家たちが出品する公募展です。第1回展は昭和20年10月に開催され、今年で77回目を迎えました。その規模は公募展として県下最大を誇り、所属会派を超え、幅広い年齢層から作品が寄せられるため、石川県における美術の現在を知る絶好の機会となっています。今年4月13日(火)まで、石川県立美術館と金沢21世紀美術館の2会場で開催されています。

当館では毎年6月に「現代美術展 七尾展」を開催しており、今年で27回目を数えます。本展では「第77回現代美術展」出品作品から選抜した、おおよそ200点の作品を紹介予定です。



昨年の展示室の様子

観覧料

	個人	団体
一般	500円	400円
大高生	350円	300円

※中学生以下無料・団体は20名以上です。

令和2年度 新収蔵品紹介

令和2年度に当館へ収蔵された作品を紹介します。貴重な作品をご寄附いただきました皆さま、本当にありがとうございます。

(令和3年3月31日現在)

①日本画「舟小屋」 梅木信作

平成5年(1993)制作

再興第78回院展出品

②日本画「舟小屋」 梅木信作

平成13年(2001)制作

再興第86回院展出品

※梅木宏真氏より寄附。

③彫刻「プシケを運ぶ弓」 吉田隆

昭和62年(1987)制作

※真館博典氏より寄附。

④洋画「みちしお」 中村秀雄

平成10年(1998)制作

一陽会新春展出品

※個人より寄附。

⑤洋画「黒い雲とおじさん天使」 大場吉美

令和2年(2020)制作

第76回現代美術展出品

※大場吉美氏より寄附。

⑥写真「あいの風」シリーズ(全42点)

富岡省三

昭和31～34年(1956～59)制作

平成16年(2004)個展出品

※西出和代氏より寄附。



①



④



⑤



⑥

※「あいの風」シリーズより

令和3年度 友の会 行事スケジュール ～皆様のご参加をお待ちしております～

●「美術館だより」年度内4回発行

第105号・春号(4/1)、第106号・夏号(7/1)、第107号・秋号(10/1)、第108号・冬号(1/1) ※()は発行予定日

●「友の会」開催予定行事

5月15日(土)「長谷川等伯展 ～動物表現と北陸初公開作品を中心に～」ギャラリートーク ※下記参照

7月14日(水)「第22回友の会鑑賞の旅 日帰りバス旅行」輪島方面 ※下記参照

7月31日(土)「歌麿とその時代展」開会式・鑑賞 無料招待

10月3日(日) 美術講座 (仮)美濃焼鑑賞会

11月6日(土)「2021イタリア・ポローニャ国際絵本原画展」開会式・鑑賞 無料招待

※開催日程・内容等は変更または中止する場合がありますのでご了承ください。

○「長谷川等伯展」ギャラリートーク

北陸初公開作品を中心に解説します。

・日時…5月15日(土)16:00～17:00 ・定員…先着15名 ・参加費…無料(要当日観覧券)

・申込方法…4月3日(土)から電話にて受付。

○第22回友の会鑑賞の旅 日帰りバス旅行「ゆったり、のんびり、輪島紀行」

「能登の里山里海」が日本初の「世界農業遺産」に認定されて、今年で節目となる10年目。

そこで今回は奥能登輪島にスポットをあて、その魅力にふれる旅へ出かけます。

訪ねるのは今年開創700年を迎えた名刹「總持寺祖院」、重要文化財指定「旧角海家」と美しい景観の「黒島地区」、そして風光明媚な「白米千枚田」。さらに石川県輪島漆芸美術館で伝統工芸の輪島塗を鑑賞します。

初夏の奥能登路で、「里山里海」の豊かな自然と文化に心ゆくまでいやすまじよう!

・日 程…7月14日(水) 8:30出発～17:30帰着予定

・見学地…總持寺祖院、旧角海家、石川県輪島漆芸美術館、白米千枚田

・参加費…5,500円(税込み)

※バス代・拝観入館料・昼食代・旅行傷害保険料込。

※友の会会員以外の方は上記参加費に1,000円加算となります。

・定 員…先着20名(対象は原則として成人)

・募 集…4月24日(土)～6月20日(日)※定員に達し次第締め切り

・申込方法…参加費をご持参のうえ、当館開館日に受付までお越しください。



總持寺祖院
(画像提供…總持寺祖院)

参加者
大募集!

石川県能登島ガラス美術館 展覧会情報

七尾美術館から車で30分!

①テーマ展「探求と創作」

会期…現在開催中～5月23日(日)まで

②特別展「本郷仁 風景装置」

会期…6月5日(土)～9月5日(日)

③企画展「吉祥文様 中国清朝のガラス」(仮称)

会期…9月11日(土)～12月12日(日)

④テーマ展「リフレクション」

会期…12月18日(土)～令和4年3月6日(日)

⑤巡回展「創立50年記念 日本のガラス展」

会期…令和4年3月12日(土)～7月10日(日)

前期…3月12日(土)～5月8日(日)

後期…5月14日(土)～7月10日(日)

※展覧会の詳細は能登島ガラス美術館まで
お問い合わせください。

☎0767-84-1175

26th year 池田コレクション

6月26日(土)～7月25日(日)

七尾市出身の実業家でコレクターでもあった池田文夫氏(1907～87)が蒐集した美術品である「池田コレクション」。平成7年の当館開館以降、常に所蔵品の中心として共に歩み続け今年で26年目を迎えました。本展では「池田コレクション」より幅広く各作品を紹介します。



「備前播鉢水指」(池田コレクション)

黄金期の浮世絵 歌麿とその時代展 ～美人画と役者絵～

7月31日(土)～9月12日(日) 会期中無休

喜多川歌麿が活躍した時代は、数々の名作が誕生した浮世絵の黄金期です。中でも歌麿は美人画の第一人者と呼ばれ、女性の顔をクローズアップした大首絵をはじめ、繊細な描写による美しい仕草や、粹でオシャレないでたちの女性像が人気を博しました。また、写楽や豊国の役者絵は今でいう人気タレントのブロマイドとして庶民がこぞって買い求めました。

本展では、歌麿とその弟子たち、鳥文斎栄之一門の美人画から、謎の絵師として名高い東洲斎写楽、勝川春章ら勝川派、歌川豊国率いる歌川派の役者絵に、貴重な肉筆画を合わせた135点を一堂に展観します。

会期中はプレゼント企画もありますので、ぜひあわせてお楽しみください。



左:東洲斎写楽「中島和右衛門のほうたら長左衛門と中村此蔵の船宿かな川やの権」



右:喜多川歌麿「青楼三美人」

貸館催し物案内

●アートホール●

なかのと奏友会

ユーフォニアム・テューバンサンプル
コンサート in 2021 春

5月16日(日) 開演14時

入場無料(要入場予約申込)

主催 なかのと奏友会

連絡先 荒川裕介

☎090-3768-5608

ピアノ学習者と指導者のための

音楽歴史紀行

第8回「ロマン派の作曲家たち」

6月20日(日)

開演 第1部 13時30分

第2部 15時

入場料 第1部 1,000円

第2部 3,000円

通し 3,500円

主催 能登ピアノレスナー会

助成 いしかわ県民文化振興基金

連絡先 中田

☎090-8263-0913

ティールームの営業について

当館ティールームは「新型コロナウイルス感染症」対策の一環として、現在営業を休止しています。皆さまには大変ご迷惑をお掛けいたしますが、どうかご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

石川県七尾美術館だより No.105

発行日:令和3年4月1日

発行者:公益財団法人七尾美術財団

〒926-0855 七尾市小丸山台一丁目1番地

TEL.0767-53-1500 FAX.0767-53-6262

https://nanao-art-museum.jp

表紙



「仏涅槃図」長谷川信春(等伯)筆 天正元年(1573)制作 京都市・知恩院蔵

令和元年に新たに等伯真筆と確認された作品。知恩院で2月の涅槃会に掛けられる以外での公開は初。箱書により35歳の筆とされ、京都での制作となる。仏涅槃図の見所の1つでもある沢山の動物たちが、緻密な筆致で描かれる。今回は、能登時代30歳筆の羽咋市・妙成寺蔵「仏涅槃図」と並べて展示、ぜひ展示室で見比べていただきたい。